

安全協定

通報体制

Q 安全協定では、「特別の広報を行なう場合は、県と大飯町に事前に協議する」となっているが、これは緊急時における住民への通報も含まれているのか。

もし、含まれているとすれば、市民への通報は、間にあるのではないのか。

A 原子力発電所に伴う安全協定について、周辺市町村は、県が包括的に責任を果たすこととされている。しかし、本市については、距離的にも非常に近く、県の原子力環境安全管理協議会の構成メンバーであることなどにより、県の安全協定の範囲内を基本原則として、県および大飯町の立会いのもとに、関西電力と直接安全協定を結んだ。

ご質問の緊急時における住民への通報であるが、原子力発電所の事故について、それが避難を要する事故か、あるいは軽微なものなのか、非常に高度な判断が必要である。いたずらに市民生活を混乱させることはできない。県には、原子力専門の担当

職員がおり、そういった判断のものに広報を行なうということ、「事前に協議する」となっている。

Q 住民への連絡通報体制について、どのように周知徹底していくのか。

サイレンの内容や避難場所など、市民に十分に理解されていないのではないのか。

A 本年一月に、小浜市地域防災計画の原子力防災編を、防災会議で承認してもらった。サイレンの内容、退避、避難場所などについては、市民の不安をつのらせない範囲で周知したい。

県でも、防災のしおりを嶺南地区の全世帯に配布すると聞いている。今後とも、積極的な対応を図っていきたい。

協定書

Q 市として、安全協定に ついて、今後どのようなことを、重点的に協定書の中に盛り込んでいくのか。

A 立地自治体と同様の協定を結ぶよう県に申し入

れをしている。

近々、準立地市町村連絡協議会が、先進地視察を行なう予定であり、そういった内容も含め、今後検討してまいりたい。

ネットワーク

Q 住民の避難を含む連絡通報体制の確立について

は、以前から一般災害も含めた通報システムの設置を要請してきたが、市当局は、CATVは財政的にも問題がありオフトークを検討課題としていきたいという答弁をされた。いつになれば、検討に対する結論が出るのか。

電源三法による交付金の使途については、国の指定した事業でないといけないとの説明があつたが、安全確保のための通報体制の確立も、原因があることよって起こるものであり、電源交付金が使えないのであれば原因者負担ということも考えられないのか。

A 本市には、災害時に地域住民へ一斉通報できる情報伝達施設がないため、防災情報を含め情報化時代に対応する情報通信施設について、本市に最も適した機種は何であるかを模索し、経済性、緊

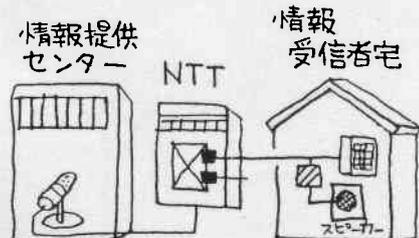
急性等からNTTオフトーク通信の導入について、検討してきた。

このオフトーク通信は、一般の電話回線を空き時間帯に有効利用する新しい情報通信施設である。

豊富で質の高い情報を提供するために、関係機関のご協力が必要であり、近隣市町村では、すでにCATVなどの映像情報施設を導入しており、オフトーク通信が市民の情報ニーズとして認めていただけの検討が必要がある。

このため、平成三年度予算に関係機関との折衝、住民の意向調査の経費を計上させていたでている。

施設設置の原因者負担についても、考えられなくはないが、準立地市町村連絡協議会が設立されたこともあり、こういった機関を通じて検討していきたい。



高齢者対策

老人保健施設

Q 公立小浜病院の改築に伴い、公立小浜病院増改築検討委員会が設置され、その中において、病院側の答弁であるとの見解が出された。

病院議会の全員協議会で、病院長が「自治体を取り組むなら病院としても積極的に協力する。」と発言している。

加えて、知事との懇談会において、病院の幹部が知事にその必要性を訴えている。

病院長や病院幹部がこのようにアクションを起こしている現在、市長は病院組合の長として、積極的に取り組まれているかどうか。

A 公立小浜病院は、昭和三十年に小浜市、上中町、名田庄村の組合立病院となり、若狭地方の中核病院として、その機能を果たしてきた。その間施設の改築、充実に努めてきたが、医療環境の変化、地域住民の医療ニーズの多様化、加えて施設の老朽化に伴い、このほど、本館の改築を主体に「公立小浜病院施設整備計画」をまとめた。

老人保健施設については、

高齢化対策の重要施策として第三次小浜市総合計画にも整備に努めることとしている。

今後、上中町、名田庄村に対し、積極的に働きかけてまいりたい。

Q 高齢化社会の進む中、特別養護老人ホームや老人保健施設の必要性が高くなってきている。

現在、県内にある老人保健施設は、医療法人、福祉法人として民間運営されているが、小浜市の場合、公立小浜病院の改築に合わせて整備するか実現できないのではないのか。市長の考えを伺いたい。

A 老人保健施設は、ねたきり老人など要介護老人に対して、医療サービスと生活サービスとを合わせて提供する施設であり、厚生省も積極的に推進している。

県内にも、嶺北に八力所開設されており、今後も増加するようである。

しかしながら、若狭地方では民間サイドの開設は望めないため、自治体が積極的に取り組まなければならない問題であると考えている。このため、公立小浜病院の

整備計画と並行して検討してまいりたいと考えているのでご理解願いたい。

観海寮

Q 老人保健施設やデイサービス、シヨートステイ機能をもった施設の建設など、住民にとつて期待の大きい事業があるが、そういったことを含めて、観海寮の今後の構想を伺いたい。

A 観海寮については、改築したい旨、県に申し入れを行なってきたが、先般、県から「福寿園」に、小浜市が希望している五十床を増築して譲渡し、運営を小浜市でお願いしたいとの意向が示された。

このことについて、投資効果や運営経費などを検討しているが、小浜市としては、独自のものを整備していったほうが良いのではないかと考えている。

公立小浜病院内の老人保健施設のこともあり、特別養護老人ホームについて、百床にしないで、五十床の改築で構わないのではないかと考えている。

今後とも、県との調整が必要であり、もう少し時間をいただきたい。

リサイクル

Q 環境汚染の問題は、世界的にも重要な政策課題であり、自治体では、解決できない問題ばかりのようにも思えるが、地球を大切に、未来に残していくためには、一人ひとりが行動しなくては前進しない。

このような状況の中、現在あふれるゴミの減量化とリサイクルについて、市としてどのように対応しようとしているのか。

クリーンセンターの建設も予定されているようであるがこれらも含め、ゴミ減量化とリサイクルをどのように考えているのかお聞きしたい。

A 安らぎや潤いのある快適な環境の創造を目指し、市民のニーズに答えるべく、ゴミ・し尿の適正処理、下水道の普及などに鋭意努力しているところである。

しかしながら、廃棄物が資源であるとの認識は希薄であり、行政としてどのようにゴミを減らしていくか、また再資源化していくかということが課題となっている。

国においても、廃棄物処理法の全面改正、再生资源利用促進法案について検討が進め

られている。

本市でも、公民館単位においてゴミ対策推進会議を開催し、ゴミの減量化、資源化のため、分別の徹底、廃品回収の奨励、金属類の再資源化の推進について協力をお願いしている。

庁内では、紙類のリサイクルなど各種の施策を推進しているところであるが、再生紙の導入については、価格などの問題があり現在検討中である。計画中のクリーンセンター（仮称）では、リサイクルプラザ（粗大ゴミ処理施設）の併設も考えており、再資源化や再利用が行なえるよう検討を加えている。

なお、リサイクルプラザは行政主導でなく、市民の手によるリサイクル活動を進めていきたいと考えている。

公立小浜病院

Q 近年、増加している循環器系疾患の患者に対処するため、公立小浜病院に循環器系の診療科を設置できないか。

A 現在、公立小浜病院では、内科の中において、循環器いわゆる心臓病を対象とした患者の治療に当たっている。

本年二月には、各種の患者監視装置治療機器を配置し、心筋梗塞など重症の心臓病患者を重点的、集中的に治療する冠状動脈集中治療室を設置し、内科的診断、治療に努力しているところである。

「科」の設置についても、公立小浜病院施設整備計画の中で、増設予定科として検討している。

チャンピオン制度

Q 平成三年度の重要施策について市長は、「二十一世紀へさわやかに躍動する都市わかさ・おばま」のまちづくり構想を基本指針としたといっている。

この「さわやかに躍動する都市わかさ・おばま」で、その底流として大事なことは、地域に住む人間の躍動こそが、不可欠の要素だと考える。

すなわち、人づくり、人材づくりであり、市内の隠れた人材を掘り起こし、地域の活性化の一助として、「なんでもチャンピオン制度」を創設してはどうか。

重要な課題となっており、それを推進する人材を育成することが急務となっている。

現在、本市における具体的な活動としては、生涯学習をはじめ、リーダーバンクの登録、地域づくりのリーダーの養成などを推進している。

また、若狭の歴史、文化、観光などに知識と意欲のある市民に、若狭の蓄積された財産を広く人々に伝えていただく、「若狭の語り部」を育成していきたいと考えている。

このように、市としては、優れた人材を輩出する基礎づくりに努めるとともに、これらの人々が、積極的にまちづくりに参加していただける環境づくりに取り組んでまいりたい。

日中友好協会

Q 激動する社会情勢の中、県内において学問、文化、スポーツ、産業など、さまざまな分野で国際交流が活発に行なわれている。

小浜市では、行政面において、中国との交流を行なっていないが、民間サイドでは積極的な交流が行なわれていると聞いている。

国際交流の気運の盛り上がりが見える今、行政として理解を示してはどうか。

A 日中両国が相互理解を果たすことは誠に意義がある。福井県でも昨年六月に、中国・浙江省との間に「友好協力協定」を締結し、また、六団体が中国の都市や学校と姉妹提携を結んでいる。

本市としても、中国との友好親善を図ることは、誠に意義深いと認識しているため、どういう形で進めていけばよいか検討させていただきたい。

行政サービス

Q 車いすなどを利用する障害者が、文化会館へ入館する際、身体障害者用スロープを使うが、そこには外灯がなく非常に危険である。早急に設置してはどうか。

聴覚障害者や日本語が話せない外国人が来庁されたときはどうしているのか。手話通訳者や通訳を配置してはどうか。

A 文化会館の外灯については、平成三年度に文化会館の身体障害者用トイレの建設工事を予定しており、その中で対応したい。

聴覚障害者や外国人に対する対応については、手話や語学に堪能な職員が対応することにより対処してまいりたい。

原子力発電所の

安全対策に関する決議

関西電力美浜発電所二号機において、去る平成三年二月九日発生した蒸気発生器の細管破断事故は、我が国で初めて緊急炉心冷却装置が作動し、地域住民に大きな不安と危惧の念を与えた。

この事故で、これまで起きないとされていた瞬時の細管破断事故が現実起こり、しかも現在の検査技術では、その前兆を発見することができなかったことで、改めて、これまででの定期検査・安全基準の在り方に大きな問題をなげかけた。

このような事故が再び発生することのないように、国民生活の影響を考慮した上で美浜二号機と同型の原子炉の事故原因の徹底究明を行なうとともに原発の定期検査基準・原子炉の停止基準など安全確保のために必要な基準の見直しを図り、防災体制を確立し、安全対策に万全を期するよう強く要望する。

記

- (一) 事故原因の徹底究明と通報連絡体制の確立。
 - (二) 今回の事故は、地域住民にはかり知れない不安とマイナスイメージを与えた。これが信頼回復のために万全を期すること。
 - (三) 安全確保等に関する協定については、周辺市町村も立地市町村並みとすること。
- 以上、決議する。

平成三年三月十九日

小浜市議会



福井県市議会議長会感謝状

松崎茂明 議員
(前議長)

人事

固定資産評価審査委員会委員

木村徳太郎 氏
(再任)

決議の種類について
地方議会における決議を法的な側面から見ると、

- ① 法的効果を生ずるもの
- ② 法的効果を生じない事実上のもの……種類あります。

決議はどのような問題に対して行なうことができるのか
決議は事実上の意思であるからといって無制限に可決できるものではなく、当該団体の公益に関する事件が対象となるものと解されます。

決議

可決された決議(案)はいつまで有効か
議会が決議案を可決した場合、その効力は当該会期以降も継続するのかどうか
が問題となるが、宣言的な決議は後会でこれを否定するような決議をするまで有効と解されます。

決議の法的制約は

決議は会議規則第十四条後段の「その他のものについては、二人以上の賛成者とともに連署して、議長に提出しなければならぬ」とする規定によつています。

決議の特徴は①議員提出②文書を要件③多数決による表決④具申先がない……事が上げられます。

第11期・市議会議員

晴れの当選者

四月二十一日に、小浜市議会議員選挙が行われた。
新しく(第十一期)選出された方々は次のとおり。
なお、今回選出された方々の任期は、平成三年五月一日から平成七年四月三十日まで
の四年間。

届出順・敬称略

- 野村定彦 (43歳・酒井)
- 河端勝次 (59歳・板屋町)
- 岡明男 (57歳・西勢)
- 杓子明 (44歳・小松原川西)
- 石野保 (42歳・福谷)
- 坂下均 (60歳・上田)
- 福本晃 (60歳・法海)
- 山藤貞雄 (67歳・池田)
- 伊勢謙次郎 (68歳・新小松原)
- 宮崎治宇蔵 (42歳・太良庄)
- 石橋和彦 (45歳・谷田部)
- 浜岸利一 (64歳・田島)
- 村上一司 (54歳・深谷)
- 新谷高司 (54歳・上中井)
- 森下智 (73歳・竜田)
- 小川多嘉士 (59歳・上中井)
- 宮川建一 (59歳・栗田)
- 岡尾正雄 (54歳・中の宮)
- 岡本治 (53歳・千種一丁目)
- 山崎勝義 (47歳・平野)
- 松尾剛 (52歳・竹長)
- 中野健一郎 (55歳・谷田部)
- 木橋正昭 (58歳・西勢)
- 深谷嘉勝 (46歳・上野)